

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームみずあおい 1階		
所在地	静岡県静岡市葵区北3丁目26-29		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	平成29年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhiw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2274202148-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成29年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とGHみずあおい理念「居心地の良いぬくもりあふれる光の中で楽しい時間をいつまでも」を実践すべくお客様中心のケアが出来るよう日々努めています。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、接遇やご本人を尊重するケアを大切にしています。また、デイサービス併設事業所の強みを生かして、慰問ボランティアさんの演舞や、行事などにも参加して頂き、メリハリのある生活の提供に努めています。

介護福祉士取得率も60%を超え、知識と経験を活かしたケアを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

90歳になる伴侶が「娘が休みだったから送ってもらった」と運営推進会議に出席くださるほど、利用者と利用者家族に愛されている事業所です。キーパーソンの若返りによって運営推進会議や秋の遠足への参画が増え、距離が縮んだことは職員も実感できるほどになり、外部評価の家族アンケートの記述にも事業所への評価の高さが現れています。法人が年1度行う顧客満足度アンケートでは結果を真摯に受けとめ、是正が速やかなことも信頼につながる要因で、家族会を「ホームパーティー」と名付けていることもアイデアが光る点として、一つひとつ「どうなっていたらいいか」にフォーカスしてシステムに乗せていることに大いに感心します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念I:2274202148					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念(部署理念)をフロア壁に掲示し職員と共有を図っている。	掲示や朝礼での復唱、プリセプター制度で意識づけを図るほか、本年度は「こやまケア10ヶ条」に係る項目について自己評価、他者評価をおこない、浸透を進めています。またこの浸透への取組みが毎年工夫を凝らして変容させていることには努力が偲ばれます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝晩の挨拶の徹底はもちろん、運営推進会議や祭りなどを通じて地域交流を図っている。地域行事にも可能な限り参加している。今期は町内会の組長を務めた。	集金、広報紙のセット配布、地域行事の出欠席、防災訓練の準備等、やる事が満載の組長を本年は引き受け、「あつ、この人此処に住んでたんだあ」と小さな気づきを日々得つつ、地域に貢献することができた有意義な1年を送ることができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅介護支援事業所併設により、地域の介護に関する相談窓口があった為(H27年度に休止。)、近隣の方が相談や見学に訪れる事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各種報告や意見交換の中からサービス向上につながる取り組みを実践している。	行政、地域、家族をメンバーとして隔月開催が叶っています。普段の様子を写真に収め、カラー印刷を用意したり、日々の取組みを時系列で表示して、「参加者に解り易く伝えようとしている」ことが十二分に伝わります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事項等はなるべく電話で済ませず、行政窓口積極的に足を運び、関係性を築いていけるように努めている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席くださり、困難事例にも連携できる下地があります。転倒骨折のケースでは市役所に速やかに事故報告をおこない、行政シニアサポーターに登録のうえ本年は2～3組の実績もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や事業所内勉強会等を通じ、全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。	所長が講師を務めての内部研修で習熟していることは記録から十分確認できます。また欠席者には資料を読んだの「(理解度の)評価表」、参加者には「報告書」が用意されモニタリングも確かです。ストレスチェックの実施、労働衛生推進者講習等職場環境の向上にも尽力しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や事業所内勉強会等の学ぶ機会を設けており、虐待防止に努めている。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、御本人を尊重したケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会を設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は所長が行い、不安や疑問を解消した上での契約を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、年に1回顧客満足度アンケートを実施しており、運営に反映させている。	キーパーソンの若返りによって運営推進会議や秋の遠足への参画が増え、距離が縮んだことは職員も実感できるほどになり、外部評価の家族アンケートの記述にも評価の高さが現れています。また家族会を「ホームパーティー」と名付けていることもアイデアが光ります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、部署会議等で職員の提案や意見を聞く機会を設けている。	事業所目標は職員アンケートに基づいて策定されています。「地域交流」「感染症対策」「教育・研修」のほか、「組織体制の強化」についても意見を表明できていて、アクションプランや達成度を示してPDCAサイクルに乗せて運用されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は所長が労働衛生推進者養成講習を受講するなど、労働環境の整備に努めている。 また最低でも年に2回は個別面談を行い、個々の職員の抱える問題に向き合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所内勉強会、新人教育のOJT、介護福祉士の実務者講習など、職員教育の仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交換実習やケア評価等を通じて交流を図っている。地域の交流会や外部研修等を通じて知り合った施設からの見学や入居問い合わせに繋がった事例もあった。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為に本人様の自宅を訪問し、ご本人の意向や生活歴等を十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為に自宅を訪問し、ご家族の意向や不安点などを十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で十分に必要なお聞きし、柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝のゴミ出しや洗濯物たたみ、食器拭きなど、家事動作を入居者と一緒に行う事で関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力ささいなことでも電話で報告や相談を行うようにしている。またなかなか来所いただけないご家族にも月に一度は写真を添付したお便りを送り、近況をお伝えしている。ホームパーティーや遠足などの家族参加の企画も実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人などが来所された際はお話が楽しめるような空間づくりに配慮している。また、正月には馴染みの人へ年賀状を作成している。	医師の指導の下飲酒を続けることができたり、好みのふりかけや梅干しを職員に買ってきてもらったりと、これまでの暮らしが続くよう支援しています。書道を嗜む人は併設のデイサービスのレクリエーションに加わったり、墓参に付き添ったこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、おだやかにお過ごしいただけるような配席にしている。また集団でのカラオケや手作りおやつなどのレク活動も実施し、孤立しない環境を作っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院する等で退居になった場合でも今後のご家族の意向をお聞きし、お力になれる部分はあるのかをご家族と相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期のインテークのみならず、ここでの生活が始まってからのご本人の様子、ご家族の気持ちを常にお聞きし、プラン作成に努めている。 また会議体でその希望を職員が共有できるよう努めている。	「お客様担当」制度を敷いていて一人ひとりの利用者の思いや意向を掴む主担当がおり、「自動販売機にコインを入れて買って飲む」「(若い頃から好きだった)マックを食べる」「夫妻で誕生日祝いに回転寿司(夫が寿司好き)」等、本人本位の実践で自己有用感を高めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、御本人とご家族より生活歴を始めとした情報収集に努めている。またその情報も判定会や申し送り等で全職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活を提供できるよう、日々現状の把握に努めており、情報は介護記録や申し送りに落すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議等を通じて、職員の意見、ドクター、家族の意見等、様々な方の意見を伺い、プラン作成に努めている。	介護記録には1日の流れに沿って変化を記載しつつ、介護計画書の「サービス内容」が予め印刷されて夜勤者が評価するよう組まれています。詳細に家族と確認をとってゆくことを旨としており、家族来所が増えたこともあって内容の充実につながり功奏しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にプランの達成を図る仕組みを取り入れ、職員同士で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜間の外出や、ご家族も参加する遠足企画など、新しいサービスに挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事には入居者にも参加頂けるよう努めている。買い物や外食をすることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を通じて、ドクターとともに入居者の心身に合わせた医療を提供している。	高齢者や看取りへの対応に理解ある医師の訪問診療を15名が受けています。専門医には家族が付添っていますが、本人、家族の都合で難しければ職員が代わっておこなっています。週2回訪問看護に健康管理を託し、医療連携加算をとっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週2回の医療連携により、情報共有が図られる。またDS看護師との連携もあり、適宜必要な処置が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談員さんとの連携にはもちろん、入院時はケアマネが病院に出向き、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化に関する指針を定め、希望される方にはそれに則り、他職種連携とご家族の協力を得ながらチーム支援に努めている。	重度化の指針などは契約時に家族に説明しています。変化に応じて医師の診断を仰ぎ、家族とも合議したうえで、あらためて同意書にサインを得ています。本年は3名お見送りしていますが、皆職員の顔を見たいと思ったのか朝方旅立って逝かれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看介護職は普通救命講習を受講している。また事業所内の勉強会でも緊急時対応等の学習の場も設けている。 訪問診療医は夜間も対応可能である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練は行うが、実際の夜間における招集訓練や避難訓練は未実施である。	本年は防災担当責任者の交替でさらに気を引き締めての訓練となりました。「職員1名で外階段を使い車いすの利用者を下す」といった具体的なメニューを事業所のみで様々考案して実施しています。所長がふじのくに防災士の講習も受け、地域の訓練にも加わっています。	防災業者や消防署職員、自主防の参加を得て、専門的助言をさらに集めることを期待します。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	湖山医療福祉グループである百葉の会では「こやまケア」なるケアの指針に基づき日々業務に当たっており、接遇に関しては気を配っている。	全体会議のなかで相互評価をおこなって省みています。「ちょっと待ってて」は言いがちなため全体の課題と位置づけ、言い方を替えるなど模索するほか、トイレの開閉がリビングからオープンに目に入るため、職員の留意ポイントと自覚しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時は、まずはご本人にお聞きしてから支援するようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の個々のペースに合わせた生活づくりの提供を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を決める際は職員が一緒に選ぶなどして、御本人が選びやすい環境を作っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パンが好きな方にはパンを提供する等、お一人お一人のお好きな物をお聞きするのはもちろん、その方の可能な範囲で支度や片づけを行っている。	業者からレシピと食材が届きますが、諸所足りないものは職員が買いだしにしています。人参を星形に抜いたり、プリンに生クリームと苺を乗せたり、女子力の高い献立です。また家族が好きなものを持ち込んでくれることも間々あり、調査訪問時にも鰻の差し入れがありました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事量と水分量を記録管理している。栄養士が設計した献立と材料を業に発注し、手作りの料理の提供に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室に備え付けの洗面台にて口腔ケアを実施している。うがいが出来ない方はデンタルブラシやマウスウォッシュ等を用いて個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングでのトイレ誘導を実践している。車椅子の方でもトイレ誘導を行う。日中のベッド上でのパット交換は極力行わないようにしている。	パット等消耗品は家族の経済的負担を考慮して、「リーズナブルなもの」を検討して選んでいます。「トイレで」の想いを以て繰り返した結果、筋力がついて立位が保てるようになったとの例もあります。体操や食事内容のほか午前と午後のお茶を牛乳に替えての便秘対策もおこなっています。	棚には僅かしか物がありませんでしたが、目隠しカーテンがあるとなお良いと思います。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師より薬が処方されている方には、医師、看護師の指示を徹底している。DSの体操にも参加し、体を動かす事で排便に繋げるよう努めている。 10時の補水の際にお茶ではなく牛乳をつかった飲み物等を提供することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	医療的処置の必要性の関係上、入浴日が決まってしまう場合もあるが、お客様の入浴の希望を確認し、個々の好みの温度で提供している。	造花なもののアイビーを壁に這わせて目が和むよう工夫があります。シャンプー、ボディソープは共用ですが、好みの銘柄を個別に使う人もいます。歌をうたったりする人はいませんが「しあわせ～」と満足気な言葉がこぼれ、愉しみの一つとなっています。	造花はカビ対策を改めて確認することを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体状況に合わせてお昼寝の時間を提供したり、就寝の時間も個々の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、薬の変更があった際には全ての職員が把握できるよう申し送り、服薬管理表、医療連携表などで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや掃除、食器拭きや洗濯干し等、出来る事は極力役割をもって頂いている。新聞を読んだり、テレビ、カラオケ、タバコや習字、ぬり絵や飲酒等、趣味や嗜好品も楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物好きな方には一緒に出掛けたり、近隣の散歩を倒しんでいる。年間通じての企画では、お誕生日企画や、遠足など、様々な機会を提供している。	花見、浅間神社の夏祭り、紅葉狩り、イルミネーションが年間企画で設けられるほか、敬老祝賀会にお洒落して出掛けたり、家族を誘って全員で蓮花寺公園への遠足や近隣の介護保険事業所のイベント等小まめで多彩な外出がみられます。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所側で行っているが、外出の際には、可能な方にはお財布からお金を支払って頂く事を実践している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月にはご家族へ年賀状を書いて投函するといった企画を毎年行っており、ご家族からも評判が良い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いで不快にならぬよう、清掃や芳香剤の使用等を行っている。フロアには季節の飾りつけを四季ごとに行ったり、習字等の作品も掲示するようにしている。	フェルトや色紙で制作したオブジェが目を惹き、若い職員の躍動感が満ちている共用空間です。クリアファイルで額をつくっている大きな写真掲示は、中身を毎月入れ替え、季節の流れや利用者の様子が一目でわかるとともに話材にも役立っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は気の合った方同士で座って頂くよう配慮している。窓辺には椅子を置き、日光浴をしながらゆったりと過ごすような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具類などはご本人が使い慣れた物を利用して頂いている。壁にはご家族の写真などを貼り、安心して過ごして頂けるよう工夫している。	レク作品や家族写真、職員からプレゼントされた誕生日の記念写真等、思い出のモノに囲まれた生活があります。「イチローが大好き!」という人は背番号がはいったTシャツやポスターを貼り出して、眺めて楽しんでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の歩行状態に合わせてシルバーカーや歩行器、車いすを使用している。安全に移動ができるよう導線上に物は置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームみずあおい 2階		
所在地	静岡県静岡市葵区北3丁目26-29		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	平成29年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2274202148-006&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成29年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」とGHみずあおい理念「居心地の良いぬくもりあふれる光の中で楽しい時間をいつまでも」を実践すべくお客様中心のケアが出来るよう日々努めています。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、接遇やご本人を尊重するケアを大切にしています。また、デイサービス併設事業所の強みを生かして、慰問ボランティアさんの演舞や、行事などにも参加して頂き、メリハリのある生活の提供に努めています。

介護福祉士取得率も60%を超え、知識と経験を活かしたケアを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

90歳になる伴侶が「娘が休みだったから送ってもらった」と運営推進会議に出席くださるほど、利用者と利用者家族に愛されている事業所です。キーパーソンの若返りによって運営推進会議や秋の遠足への参画が増え、距離が縮んだことは職員も実感できるほどになり、外部評価の家族アンケートの記述にも事業所への評価の高さが現れています。法人が年1度行う顧客満足度アンケートでは結果を真摯に受けとめ、是正が速やかなことも信頼につながる要因で、家族会を「ホームパーティー」と名付けていることもアイデアが光る点として、一つひとつ「どうなっていたらいいか」にフォーカスしてシステムに乗せていることに大いに感心します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念I:2274202148					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念(部署理念)をフロア壁に掲示し職員と共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝晩の挨拶の徹底はもちろん、運営推進会議や祭りなどを通じて地域交流を図っている。地域行事にも可能な限り参加している。今期は町内会の組長を務めた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅介護支援事業所併設により、地域の介護に関する相談窓口があった為(H27年度に休止。)、近隣の方が相談や見学に訪れる事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各種報告や意見交換の中からサービス向上につながる取り組みを実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事項等はなるべく電話で済ませず、行政窓口積極的に足を運び、関係性を築いていけるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や事業所内勉強会等を通じ、全ての職員が身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や事業所内勉強会等の学ぶ機会を設けており、虐待防止に努めている。「こやまケア」なるケアの指針に基づき、御本人を尊重したケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については学ぶ機会を設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は所長が行い、不安や疑問を解消した上での契約を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、年に1回顧客満足度アンケートを実施しており、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、部署会議等で職員の提案や意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は所長が労働衛生推進者養成講習を受講するなど、労働環境の整備に努めている。 また最低でも年に2回は個別面談を行い、個々の職員の抱える問題に向き合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所内勉強会、新人教育のOJT、介護福祉士の実務者講習など、職員教育の仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交換実習やケア評価等を通じて交流を図っている。地域の交流会や外部研修等を通じて知り合った施設からの見学や入居問い合わせに繋がった事例もあった。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為にご本人様の自宅を訪問し、ご本人の意向や生活歴等を十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の前に必ずインテークの為に自宅を訪問し、ご家族の意向や不安点などを十分にお聞きしてから、それに応え得る力量が自分達にあるかを判断した上で入居をお受けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で十分に必要の情報をお聞きし、柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝のゴミ出しや洗濯物たたみ、食器拭きなど、家事動作を入居者と一緒に行う事で関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力ささいなことでも電話で報告や相談を行うようにしている。またなかなか来所いただけないご家族にも月に一度は写真を添付したお便りを送り、近況をお伝えしている。ホームパーティーや遠足などの家族参加の企画も実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人などが来所された際にはお話が楽しめるような空間づくりに配慮している。また、正月には馴染みの人へ年賀状を作成している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考え、おだやかにお過ごしいただけるような配席にしている。また集団でのカラオケや手作りおやつなどのレク活動も実施し、孤立しない環境を作っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院する等で退居になった場合でも今後のご家族の意向をお聞きし、お力になれる部分はあるのかをご家族と相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期のインテークのみならず、ここでの生活が始まってからのご本人の様子、ご家族の気持ちを常にお聞きし、プラン作成に努めている。 また会議体でその希望を職員が共有できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時、御本人とご家族より生活歴を始めとした情報収集に努めている。またその情報も判定会や申し送り等で全職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った生活を提供できるよう、日々現状の把握に努めており、情報は介護記録や申し送りに落すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議等を通じて、職員の意見、ドクター、家族の意見等、様々な方の意見を伺い、プラン作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にプランの達成を図る仕組みを取り入れ、職員同士で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜間の外出や、ご家族も参加する遠足企画など、新しいサービスに挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事には入居者にも参加頂けるよう努めている。買い物や外食をすることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を通じて、ドクターとともに入居者の心身に合わせた医療を提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週2回の医療連携により、情報共有が図られる。またDS看護師との連携もあり、適宜必要な処置が受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員さんとの連携にはもちろん、入院時はケアマネが病院に出向き、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りと重度化に関する指針を定め、希望される方にはそれに則り、他職種連携とご家族の協力を得ながらチーム支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看介護職は普通救命講習を受講している。また事業所内の勉強会でも緊急時対応等の学習の場も設けている。 訪問診療医は夜間も対応可能である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練は行うが、実際の夜間における招集訓練や避難訓練は未実施である。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	湖山医療福祉グループである百葉の会では「こやまケア」なるケアの指針に基づき日々業務に当たっており、接遇に関しては気を配っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時は、まずはご本人にお聞きしてから支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の個々のペースに合わせた生活づくりの提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を決める際は職員が一緒に選ぶなどして、御本人が選びやすい環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パンが好きな方にはパンを提供する等、お一人お一人のお好きな物をお聞きするのはもちろん、その方の可能な範囲で支度や片づけを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に食事量と水分量を記録管理している。栄養士が設計した献立と材料を業に発注し、手作りの料理の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室に備え付けの洗面台にて口腔ケアを実施している。うがいが出来ない方はデンタルブラシやマウスウォッシュ等を用いて個々の状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングでのトイレ誘導を実践している。車椅子の方でもトイレ誘導を行う。日中のベッド上でのパット交換は極力行わないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師より薬が処方されている方には、医師、看護師の指示を徹底している。DSの体操にも参加し、体を動かす事で排便に繋げるよう努めている。 10時の補水の際にお茶ではなく牛乳をつかった飲み物等を提供することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	医療的処置の必要性の関係上、入浴日が決まってしまう場合もあるが、お客様の入浴の希望を確認し、個々の好みの温度で提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の身体状況に合わせてお昼寝の時間を提供したり、就寝の時間も個々の状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、薬の変更があった際には全ての職員が把握できるよう申し送り、服薬管理表、医療連携表などで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや掃除、食器拭きや洗濯干し等、出来る事は極力役割をもって頂いている。新聞を読んだり、テレビ、カラオケ、タバコや習字、ぬり絵や飲酒等、趣味や嗜好品も楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物が好きな方には一緒に出掛けたり、近隣の散歩を倒しんでいる。年間通じての企画では、お誕生日企画や、遠足など、様々な機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所側で行っているが、外出の際には、可能な方にはお財布からお金を支払って頂く事を実践している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月にはご家族へ年賀状を書いて投函するといった企画を毎年行っており、ご家族からも評判が良い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いで不快にならぬよう、清掃や芳香剤の使用等を行っている。フロアには季節の飾りつけを四季ごとに行ったり、習字等の作品も掲示するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブル席は気の合った方同士で座って頂くよう配慮している。窓辺には椅子を置き、日光浴をしながらゆったりとのんびり過ごせるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具類などはご本人が使い慣れた物を利用して頂いている。壁にはご家族の写真などを貼り、安心して過ごして頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の歩行状態に合わせてシルバーカーや歩行器、車いすを使用している。安全に移動ができるよう導線上に物は置かないようにしている。		